

「12月の天候の特徴」

1 12月の気象

12月は冬の始まりです。南国といわれる愛媛県でも冬の便りが聞こえるようになります。

松山の初霜、初氷の平年日はそれぞれ11月29日と11月30日ですが、初雪の平年日は12月18日(昨年は12月5日)、初冠雪(11月の天候の特徴のワンポイントメモ参照)の平年日は12月5日(昨年は12月4日)となっています。

12月に入るとシベリアの高気圧が勢力を強め、千島列島から日本の東海上にかけて低気圧が発達して「西高東低の冬型の気圧配置」が現れやすく(図1)冷たい北西の季節風が吹き、日ごとに寒くなります。

大陸から吹き出す冷たい乾燥した季節風は、日本海を渡ってくる間に海面から水蒸気を補給して雲を発生させ日本海側の沿岸に近づくころには発達した雪雲になります。

この季節風は日本の山脈にぶつかり、日本海側に雪を降らせます。気象衛星「ひまわり」の画像(図2)を見ますと、日本海から黄海、東シナ海にかけて、びっしりと筋状の雪雲がみられ、一部は太平洋側まで吹き出しています。

この日(平成17年12月13日)は愛媛県では山間部を中心に雪が降り、松山でも晴れ間も拡がりましたが、雲が多く一時雪も降りました。また、日中の最高気温も5.7と平年の12.6を大きく下回る寒い一日となりました。

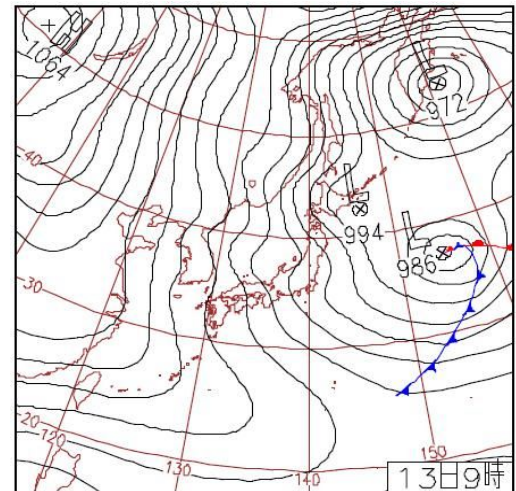


図1 地上天気図

平成17年12月13日09時

2 12月の気象災害

大雪による災害

H17年12月17日～18日にかけて四国の上空5500メートル付近に氷点下3.5度以下の非常に強い寒気が流れ込んで冬型気圧配置が強まり、愛媛県でも山間部中心に大雪となり、久万高原町で6.5センチの積雪、平野部でも積雪となりました。また18日朝は冷え込み久万高原町で氷点下5.4、宇和町で同3.7を観測、新居浜、今治、松山などでも氷点下となりました。

このため、南予地方を中心に収穫前の温州みかんが降雪や寒風により、変色したり傷がついたりする被害が相次ぎ、被害総額は7億5千万円にも上りました。また、雪の重みによる倒木等により高圧線が断線し中南予で8千戸余りが停電したほか、高速道路の通行止めやチェーン規制など交通機関も乱れました。

3 ワンポイントメモ

「クリスマス寒波」と「年末低気圧」

クリスマスから年末にかけて、日本付近を発達した低気圧が通過し悪天をもたらすことがあります。強いものになると海、山とも大荒れの天気になり、海や空の交通が乱れ、人々の年末年始の予定を大きく狂わすこともあります。低気圧の通過後は冬型の気圧配置となり、大陸から強い寒気が日本列島に流れ込んできます。これらを「クリスマス寒波」とか「年末寒波」あるいは「年末低気圧」と呼んでいます。

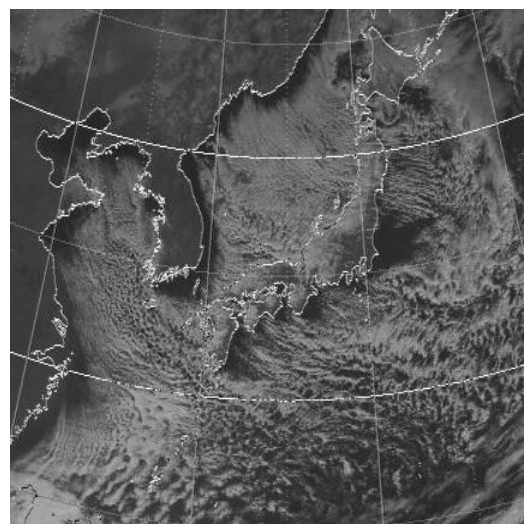


図2 気象衛星ひまわりの可視画像

平成17年12月13日12時